

夢もつとひろがれ

10

発行・編集
いぶき福祉会後援会

〒502-0907
岐阜市島新町5番9号
TEL.058-233-7445
FAX.058-232-9140
E-mail:ibuki@alto.ocn.ne.jp
(1部100円)

秋の小旅行



『日本昭和村
～足湯でほっこり～』

大きな台風が去って、朝晩は冬の気配を感じるようになりました。山の木々も色づき始めています。秋といえば、行楽の秋、食欲の秋、読書の秋……。いろいろなことができそうな気がしますね！私はやっぱり行楽の秋。この爽やかな季節を存分に楽しみたいと思います。

もくじ

- ② 「後援会」いぶきを思う
- ③ 「外部の支援者」なかもとの旅の思い出
- ④ ⑤ 「シリーズ」私と娘といぶきと
- ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ 20周年記念事業報告
- ⑩ ⑪ なかまのすがた
- ⑫ 「連載」四季折々の記
- ⑬ 決算報告
- ⑭ いぶきができるまで～その七～
- ⑮ 更新御礼
- ⑯ 更新御礼・お知らせ

2014
Autumn
Vol.180

いぶきを思う

いぶきの存在は、
地域の宝です

今から17、18年ほどになるのでしょうか。「第二いぶき」が三輪の地に誕生するところからのお付き合ひになります。しかし、その後は、名ばかり後援会員で何のお役にも立てず、唯一、毎年の夏まつりだけは中川塾やNPO法人仕



事工房ポロとして参加させていただいてきました。つまり、いぶきの仲間やその運動の周辺にいただけの経験しか持ち合わせません。しかし、その営々と積み重ねられてきた歴史からは、周辺からだけでも十分に学ぶに値するものだと感謝しています。

私自身は、もともとこの三輪の地で進学塾でも補習塾でもない「地域塾」としての中川塾を運営する傍ら、不登校やひきこもりなど、生きづらさを抱えた子どもや若者たちと関わりながら今日まできました。「人と関われない」「人が怖い」「外に出

られない」「働けない」と訴える人たちと日々、手紙や電話、メール等でお付き合ひしながら寄り添っています。こうした若者たちは、人口の8・7%(秋田県藤里町)という調査もあります。この数字を三輪の歳から歳稼働年齢人口に当てはめてみると、その数はおよそ560人にもなります。「まさか!」と思われるでしょうが、現場で関わっているものとしてはかなり実感に近い数でもあります。この人たちの声は、社会の表に出てくることなく抹殺されています。実態が分からないため、バッシングもすさまじいものがあります。「甘えている」「だらしない」「鍛え直せ」という

容赦ない社会からの非難が、ますます彼らを社会への入り口で立ちすくませてしまっています。いぶきの仲間やご家族もきつと、同じような偏見に苦しまれたこともあるでしょう。私は、皆さんがそうした困難に負けることなく、地域の理解を得て、地域に溶け込み、地域の人たちと共に生きてこられた姿を見えてきました。いま、日本の社会は、競争に勝ち抜くために、より強いこと、より効率的であることを求められています。しかし、人は障がいがある、無しに関わらず、みんな違うものです。「競争に勝つ」という「二つのものさし」だけの社会は息苦しくなります。「みんな違う」からこそ

「違い」を「価値に変える」社会こそ構想されなくてはなりません。

多分、皆さんは意識されていないと思いますが、この地に暮らす私たちのとって、いぶきの皆さんが、同じ地で暮らし、働き、ともに生きてくださっていることに感謝しています。多様な人たちが、お互いの違いを認め合って、なおかつ共に生きていくことができる地域は、きっと誰にとっても生きやすい地域だからです。もともとと柔らかな、優しいまなざしがあふれる地域をつくるために、今後とも、一緒に歩んでいきましよう。まずは、その存在に感謝です。ありがとうございます。

中川 健史

シリーズ いぶきを支える人たち

なかまとの旅の思い出と東北大震災

私がいぶきのなかまの職場旅行やグループホームの旅行を取り扱うようになってから15年以上の年月が流れました。三重のモクモクファームに始まり、サファリパーク、モンキーパーク、浜名湖、鳥羽水族館、保津峡下り、大阪USJ、白浜温泉、京都太秦映画村、大阪よしもと新喜劇、東京お台場、福井、三保、土肥温泉、志摩スペイン村など、みなさんと一緒に企画をつくり手配し、一部の旅行を除き、みなさんにお供し、共に楽しみ、共に学びながらのお仕事で、至らぬ点多々

あり、皆様にご迷惑をおかけしたこともありましたが、よりご満足いただける旅を目指し努力を重ねてまいりました。

思い出深い幾多の旅のなかで、最も印象にある旅は、2011年3月11日にグループホームのなかまと東京のお台場や下町を訪問したときです。お台場の見学と昼食を終えて、寅さん博物館のある葛飾区の柴又へ向けて高速道路に上がったとき、バスがゆらゆらとゆれ始めました。ちよつと横風が強い日だと思っていたら、運転手さんが、

突然車を止め、「近くのものにつかまって下さい」と叫びました。地震だ！神奈川に住んでいたこともあり、伊豆群発地震など、関東の地震を何度も経験していたので、すぐゆれは収まるだろうと思っていたら、地震のゆれはますます強くなり、このまま高速道路からほうりだされるのではないかと思われるほどゆれました。どこまで強くゆれるかわからない間は、ひょっとして東海大地震？このまま高速から転落して死ぬかもしれない……とまで考えました。なんとかおさまった長いゆれだが、2度目の強いゆれが襲い、完全にゆれが収まるまでは、生きた心地がしませんでした。車が動き出し、

の難しさと危機管理の大切さを学ばせていただいた貴重な体験ともに、最も思い出深いなかまとの旅として記憶に残っています。

(有)旅ステーション

棕木昭夫

パルケエスパーニャ



シリーズ 私と娘といぶきと

家族と共に・・・

あみが生まれたとき、すぐく幸せを感じたことを思い出します。そのときの妻の柔らかな表情は印象的でした。

私自身が男三兄弟の長男であったため、女の子が生まれたと聞いてなんとも言えない気持ちだったことは今でも鮮明に記憶の中にあります。



そんなあみも成人式を終え、社会人として「第二いぶき」で働かせていただいております。私が働く彼女の姿を見ることはほとんどないですが、日々の情景はおおかた予想がつきまです。自分の気持ちに素直で、時にふてぶてしく、時に泣き、眠たくな



成人式にて

れば寝る、食べるのがなにより大好き。そんな彼女の面倒をみてくださるスタッフの皆さまには大変感謝しております。「第二いぶき」で働く仲間もあみのことをよろしく願いますね。

私たちは現在5人家族です。以前は同じ屋根の下、最大10人で同居していました。祖父、祖母、父、母、私、妻、長男、あみ、二女、祖父



成人式にて

祖母の面倒を見てくださるおばさん。そんな大家族の中で子どもたちは大きくなりました。家族で外出するのも、外食するのも基準にな

るのはあみのペース。時に人様の冷たい視線を感じながら、父親としては複雑な気持ちでいたことを覚えています。男は結構世間体を気にするもので、特別支援学校へ進ませることも妻とケンカともいえるような話し合いをしていた気がします。

あみも知らないうちに気がつけば大きくなつたんだな、と思います。我慢できず、言葉にできず、親であつてもあみの気持ちに理解できないことがほとんど・・・。私たち親も人の子、つい感情的になり何度か手を上げたこともあります。今思えば、妻も私も現実を受け止めることはなかなか大変でした。しかし、あものは言いようで、あ

る方に「大丈夫な夫婦だから、彼女を授かったんだよ」と言われ、その言葉を信じるようにしてきました。いつしか自分たちもそれなりに大人になり、祖父母や親の死に直面することで家族とは何かを考えさせられました。



染めの仕事



いくつかの頃だったか、あみの妹が「家族と一緒に居られる時間は短いんで」言っていました。最近、その言葉を現実的に感じるようになってきたと思います。あみは私たちが元気でいるうちに可能な限りそばにいてあげたいと思うし、一緒に成長していきたいと思っています。

今でも私は家に帰ると必ず子どもたちにハグします。ただ、たちと言っても今でもハグさせてくれるのはあみだけ、その上、最近はおみでさえも私のハグを拒否するようになってきました。当たり前です、成人女性だから・・・。

外で嫌なことがあっても家族の間では皆がいつも笑顔であって欲しいと思いますし、またそうあるべきだと思います。「うそやん、あんたが一番家族の和を乱してるやん」と、妻や子どもたちにもいつも言われていますが・・・。

私があみにできることってなんだろう、と思うときもあります。

とりとめのない文面ですが、今思うことを書かせていただきました。これからいろいろ大変なことがあるかもしれませんが、家族で支えあって生きていきたいと思っています。

河出あみ父

河出 恭志

染めの仕事



⇒
袋に染液と生地を入れて楽しく染めをします。



いぶき福祉会法人設立 20周年記念事業

いぶきの実践を確かめ合う集い

さる7月20日(日)、いぶき福祉会設立20周年記念事業のひとつとして、「いぶきの実践本質を確かめ合う集い」が開催されました。



3連休の中日にもかかわらず、会場となった岐阜県立図書館多目的ホールには、仲間と家族、職員、関係者あわせて150人近い方々が集い、「いぶきがこれまで大切にしてきたこと、これから

大切にしていくこと」について、3時間にわたって語り合いました。その様子をお伝えします。

●第一部 実践報告

2つの取組みが紹介されました。

はじめに、いぶきゆめひろ共同作業所の近松博子さんが、思わぬ環境の変化の中で暮らしの幅を広げ、その中で感じたことを、近松さんご自身と職員の永田和樹さんが壇上で語り合いました。それから、第二いぶきに通う藤田佳美さんが新しくパストラルいぶきでの暮らしを始め、そこに居場所を感じていくようになるまでの間、藤田さんと向き合った様子を職員の上野由恵

さんと小田由生さんが話しました。

『近松さんのこと』

近松さんの暮らしが大きく変わるきっかけは二つありました。

ひとつは障害者自立支援法が施行され、土曜日のコラボいぶき(「デイサービス」)が利用ができなくなったこと。もうひとつは二人で暮らししていた母親が病気で入院したことでした。



土曜日が使えなくなること、涙を流すこともあった近松さんは、カ

ラオケや図書館などで休日をご過ごすことが増えました。その後母親の入院で移動支援を使い始めるまで2年間、そんな暮らしが続きました。母親が入院することになり、ひとりでは暮らせないからと使い始めたショートステイは好きなこともできず心の居場所がありませんでした。職員が安心できる生活と、近松さんが安心して自由に暮らせる生活とのズレを感じた時、周りにとっては不安があるかもしれないけれども、柔軟に対応できる体制があればもっと当たり前の暮らしができるのではないだろうか。「仕方がない」ですませてはいけないのではないか。近松さんと向き合う

中で、永田さんはそんな気持ちに至ります。ただ、母親の入院中、ヘルパーを使いながら自宅でもひとりで過ごすことになっても、永田さんは不安がいつぱいだったと言います。そんな暮らしの変化の中で使いためた移動支援でしたが、自分で生活を描くことは簡単ではありません。近松さんも、移動支援とはいっても、「これがしたい、あそこに行ってみたい」といった希望を出すこともうまくできませんでした。自分で行きたいところを探したり、やりたいことを口に出せる、そうしていいんだとわかり始めた頃から、近松さんの暮らしは大きく変わりました。そんな近松さんが伝えた「東京へ行ってみたい」と

いう願い。会場では、近松さんが撮った東京スカイツリーの写真が映し出されました。近松さんと向き合ってきた中で、後悔がたくさんあると永田さんは言います。もっと早く移動支援を使っていたら。もっといろんなサービスを職員がわかっていたら、もっと早く世界がひろがったかもしれない。たださえ、新しいことを身につけていくのに時間がかかるわけだからなおさらだと。どこかで自分の範囲のなかだけで動いてしまつて、忙しさだけで自己満足してしまつてはいなかっただろうか。もつと、自分たちの視野の外にあるできごとと仲間たちとの繋がり方をイメージしていきたい、と。

自分ひとりで暮らす日がくるかもしれません。その時には、母親と暮らす家でそのまま暮らしたいとはつきりと気持ち話をしてくれました。

『藤田さんのこと』

藤田さんは百々染(草木染)の仕事をしています。今年でパストラルに入つて3年目。決して、すんなりとそこが藤田さんの「おうち」になった訳ではありませんでした。大好きな家族がいる実家に帰りたいという藤田さんの気持ち。もちろん一緒にいたいけれども、将来を考えてパストラルいぶきでの暮らしに少しでも早く落ち着いて欲しいという家族の思い。そして、パストラルいぶきを自分の居場所として感じられるよう



なつてほしいと願う職員の思い。それがうまく流れに乗り始めるまでにおよそ3年の年月がかかりました。

職員にも、どう向き合つていくかという葛藤がありました。ホームで暮らす月曜日から金曜日には、家族のことを思い出さないように家族の話を避けたら、仕事場に家族が来ても顔を合わさないようにしたほうが良いのではないか。そんなこ

考えた時期もなかったわけではありませんでした。それでも、職員の選んだ向き合い方は違いました。家族の話も自然にしよう。もし顔を会わせて恋しくなつても、今日は寂しくてもパストラルに帰る日だよと決してごまかすことなく伝えること。

泊まりたくなかったらそれでもいいよではなく、将来を見据えて、ここが藤田さんの居場所だよと伝えること。そのやりとりが、暮らしの場で、シゴトの場でされました。決して、否定する訳ではなく、藤田さんの気持ちに寄り添いながら、一緒に過ごしながら伝え、ここにいてもいいかなという気持ちの芽を少しずつ少しずつ育ててきた

んだと小田さんはコトバを選びながらいます。

百々染の仕事でも、染める材料を採つてきて、次の人に渡すことは藤田さんに託された大切な役割でした。藤田さん自身が心を動かされて頑張っている様子が、家族の心もまた動かし、いつたことを伝えたか、つたと上野さんはいいます。同時に、暮らしを作る藤田さんの気持ちの揺れをうけとめなければ、百々染のスタートにならないと思つたとも。職員自身が逃げなかつたことで、藤田さん自身の頑張りに出会うことができたそうです。

● 第二部 シンポジウム

第二いぶきの保護者で理事の前川寧士さん、サテライトいぶき職員の原哲治さんとパストラルいぶき職員の山口泰代さんが登壇しました。



はじめに、いぶきへの思いをたずねられた原さんと山口さんからは、「仲間のいろんな葛藤や気持ちの揺れに寄り添っていくことを大切にしたい」

「さらに生活を広げていくうえで、選択肢でも仲間と向き合っていきたい」とのコメント。

第二いぶき開設時から、の中心職員として、仲間の願い、職員の思い、親の願いそれぞれが交錯する立場であるがゆえに「仲間の願いを軸に、それぞれの思いを伝え合っていくことを意識して積み重ねていきたい」思いがありました。「仲間たちが自分の人生の主人公になるためにはいろんな選択をできるようにしていくこと。でもそのための経験が不可欠」であることは近松さん、藤田さんのことも当然知っている中で二人が痛切に感じていること。原さんからは「仲間たちは社会を変えることができるかけがえない存在。じっくり向き合って、これからも大切にしていきたい」という話もありました。

前川さんからは、父親の会の活動が始まったことにも触れながら、いぶきの実践について、「これから職員に託する身として、いぶき福祉会が大きくなってきた今だからこそ、もう一度、障害の重い人も含めて、その人のことを一番良く知っている母親の知恵と力をもう一度引き出すことで、次の実践の膨らみにつながるのではないか」そんな眼と心を広げていくメッセージがありました。

植え、最初の一步を踏み出された竹中隆晟さんをご紹介する場面もありました。

助言者として東京学芸大学の奥住秀之先生と理事でもある岐阜大学の別府哲先生をお招きしておりました。

発表とシンポジウムにじっと耳を傾けておられたお二人のメッセージを抜粋します。



【奥住先生からのメッセージ】

実践をきちんと職員

集団で振り返り、議論してまとめることをはととても大切なことです。それだけでなく、この20周年の節目で家族や仲間みんなが集まって共有する試みにも敬意を表します。

いぶきのみなさんへのメッセージを7つにまとめてきました。

1. なかまが生活や労働の主人公である実践
2. 労働、余暇、生活、学習、市民の5つの力を大切に実践
3. 障害、発達、生活の視点でなかまを丸ごと理解する実践
4. 問題行動を発達要求とみなす実践
5. なかまの家族や地域と連帯して前進する実践
6. 支援者もまた自分の発達を実感できる実践

7. 誰もがその人らしく
安心して暮らせる社会
への発展をねがう実践
(それぞれをとても穏や
かに伝えてくださりま
した。残念ながら詳細は
ここでは割愛します)

私たちの実践は社会
を変える力に必ずなる
はず。個の発達は集
団を、集団は社会を変
える力になります。日々
仲間と向き合うことは、
長い目で見れば社会の
発展を導く実践でもあ
ります。これからいぶ
きの実践に心から期待
しています。(七色の)虹
色のメッセージでした。

【別府先生からの

メッセージ】

実践は運動の原点だ
と改めて思いました。い
ぶきの原動力はやはり
実践にあります。実践の
視点について、3点お話

したいと思います。

ひとつは、思いを出
すというのは、できたこ
とや夢を語ることだけ
ではないということ。嫌
だと言えることは自分
の弱さをだせるという
ことであり、それが
堂々と言える実践の力
を感じました。これか
らもうそういうことを含
めて寄り添える施設で
あつてほしいと改めて
思います。仲間と呼ぶ
ぐらいの対等に近い感
覚である以上、職員に
はそこまで思いを深く
とらえてほしいと思ひ
ます。

ふたつは家族の歴史
を知ることの大切さ。
歴史を知ることが相手
のまるつとそのままを
知ること。どんな物を
背負つて今に至つたの
かということ。そう

することでその人の今
を了解することがで
きます。そういうこと
を家族から聞く時間
をとつてほしいと思ひ
ます。

3点目は、地域と繋
がるということ。障害
のある人がいきいきと
生活している姿は本来
の人間らしい暮らしだ
と思います。こういう
人間らしい暮らしがで
きない人が障害に関係
なく今の社会にたくさ
んいる。こんな人間ら
しい大人同士の関係が
あるということを大切
にして伝えていくこと
が、もういちど地域を
視野に入れて運動を構
築していくにつけにな
ると思ひます。
いぶきの実践に20年
間かかわつてくること
ができて幸せです。

集いを開催して

いぶき福祉社会設立20
周年は、もう一度自らの
足元をみつめ、ともに向
き合い直すことから始
めることになりました。

実はいぶき福祉社会で
は1995年のいぶき
開所以来、20年間欠か
すことなく毎年職員は
実践紀要をまとめ、年
度末に検討会を開き、
切磋琢磨を積み重ねて
きています。ですが、そ
のことは職員以外では
あまり知られていませ
んでした。20周年の節目
にあたり、いぶきのすべ
ての活動の根つことなる
「仲間と向き合い続ける
実践」を、いぶきに関わ
る人たちが共有したい
と思ひました。
誠実に、愚直に積み重
ねてきたけれども、それ

はどれだけの人の安心
した暮らしに結びつい
てきただろうか。これ
から先も、ここに集う
たくさんの方々の幸せ
と地域の発展のため、
私たちが見失うことな
く守り育んでいかなけ
ればならないものは何
なのだろうか。時に立
ち止まつて、確かめ合
うことが、次への確かな
一歩につながります。こ
れからも、ともに向き
合い続けることを確か
めながら、みんなの手
をつないでお互いの温
度を感じ合ったような
ひとときでした。

第二いぶき 北川雄史

第二いぶき 仲間のすがた

毎日重力を

感じながら

普段の生活の中で、自分の体に対する重力を感じたことはあるでしょうか。私たちは朝目覚めて体を起こし、顔を洗うために立ち上がり、歩いています。そんな無意識に行っていることが、こらぼの仲間たちにとっては非常に難しいのです。自分で起き上がることが、難しいからといって、ずっと同じ姿勢で寝たきりでは褥瘡(床ずれ)ができてしまいます。では、どうすれば仲間たちが楽に心地よくこらぼで過ごすこ

とができるのか・・・毎月訪問していただいている理学療法士の先生に相談し、一人ひとりに合った姿勢の取り方を教えてもらい、実行しています。



また、仲間たちが帰った後に理学療法士の



先生から『体の動きについて』や、『赤ちゃんが成長していくうえで姿勢や動作をどのようにに習得していくか』など丁寧に教えてもらい、普段の生活の中で『この人はあぐらをかくことができるから、前に手をつけば自分で支えて座ることができるようかもしれない』など勉強したことを活かすようにしています。

8月に愛知教育大学の森崎博志先生の

お話を聞く機会がありました。あぐら座や立位という重力をタテに受ける姿勢を継続的に体験することは、仲間自身がバランスをとろうと体の軸を意識し側湾(そくわん)の予防になる。筋力を使い血流がよくなる。呼吸がしっかりとできるようになる。まわりに意識を向けるようになり、手を伸ばし触ってみることで脳への刺激になるなど、座位や立位がしっかりとすると生活のベースが底上げされると教えていただきました。また脳梗塞などで寝たきりになってしまったお年寄りの場合、一週間で20パーセントの筋力が落ちてしまうそうです。スポーツで

も1日練習をサボると取り戻すのに3日かかるということがあります。座ったり立ったり歩いたりを毎日続けていくことが大切なのだ学びました。また、座位や立位を取る前段階として、硬くなった体を、声をかけたり仲間の反応をみたりしながら、ゆっくと伸ばしていくストレッチの方法なども教えていただきました。



せつかくとても良い
お話を伺ってきても、
私一人の頭の中にある
だけでは意味がありま
せん。職員全員が共有
し、仲間たちの支援に
つなげていかなければ
ならないのですが、な
かなか森崎先生のよ
うにうまく説明するこ
とができず、他の職員
もなんとなくわかった
ような・・・といった雰
囲気でした。しかし、
曖昧に終わらせてしま
ってよいものでもあり



ません。それぞれの職
員にその場その場で一
つずつ丁寧に伝えてい
くことの大切さを感じ
ています。また、たとえ
1日のうちで5分
分でも全く何もやらな
いよりは、やった方が
良いとのアドバイスを
受け、朝・帰りの打ち
合わせのときはあぐら
で座る、散歩で少しで
も歩く、立って仕事を
するなど、やらせるの
ではなく楽しく自然な
形で取り入れていくこ
とを心がけています。

私たちのできる範囲
で側臥位(横向きで寝
ること)をしたり、あ
ぐらをかいたりしてみ
るのですが、毎月訪問
していただく理学療
法士の先生がされる
ように仲間自身がう
まくバランスが取れず、
崩れてしまったり、力
が入ってしまったりと
いうことの方が多く、
どうしたら上手な姿
勢でいられるのかを再
度先生に確認をしま
す。そうすることで、
うまく姿勢が取れる
ようになった仲間から
はリラックスした笑顔



地域にある療養所
などで仲間たちが利
用している理学療法
士のリハビリは、月に
1〜2回程度です。私
たちは理学療法士の
ように、的確な訓練や
アドバイスはできない
かも知れませんが、毎



が出るようになってき
ています。また、立ち
上がり方など毎日繰
り返し行うことで、自
分の力で踏ん張って立
ち上がろうとする仲
間も出てきました。

日重力を意識しなが
ら仲間に寄り添い、将
来の仲間の姿も頭の
片隅に置いて支えてい
きたいと思います。

第二いぶき

宮下和也

連載 四季折々の記

「ゆく河の流れは

絶えずして」

■古典に学ぶ

齢を重ねていくとともに、懐古趣味ではないが古いものの価値がなんとなくわかってきた。この連載の初号の冒頭が「枕草子」の「はるはあけぼの・・・」であった。「枕草紙」は1000年ほど前に書かれた女性(清少納言)による随筆であるが、世界史をひもとくと1000年前の文化の中心は中国・アラビアであり、西欧には随筆など書ける女性はいなかった。そのようなDNAが日本文化の底流に流れ続けているのではないか。現代日本を考えると、当時の日本人の考え方や価値観を風刺的に記した古典に学ぶことが必要なのでは

ないかと思う。

■方丈記に学ぶ

我が国の随筆文学の嚆矢である「枕草子」の後、鎌倉時代になると「漢字十かな」の「和漢混淆文」が登場し、現代人にもずいぶん読みやすくなった。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかた(あぶく)は、かつ消え、かつ結びて、ひさしく留まりたるためしなし」。鴨長明の「方丈記」の冒頭である。思想的には「仏教」の無常感をうたったものであるが、鴨長明は目の前の河の流れを静止画でなく動画としてとらえている、見た目には変わらないようであるがその内実は全く違うものであること、常に変容

していることを言っているのである。

■構造改革と規制緩和

日本の高度成長が行き詰まり、社会に閉塞感が蔓延してきた1990年代、社会構造を根本から見直しその基礎構造を改革し、また同時に経済のグローバル化に対応できるように変えていく、という動きが出てきた。簡単に言うと、今までの日本文化の良いところにメスを入れ、徹底的に無駄を省き、効率的に物事を動かすということである。

そのための方策が「小さい政府」と「規制緩和」を聖域なしに徹底的に進めるというものであった。具体的に言うと「関税」の緩和に伴う外国製品の流入による「国内産業」の空洞化、大規模店舗や

コンビニの出店による商店街のシャッター街現象、「ゆとり教育」がもたらした私塾の乱立、雇用の多様化による非正規職員増に伴う「ワーキングプア」「ブラック企業」の激増、などがあげられる。

■社会保障における

規制緩和

聖域といわれてきた広義の社会保障の分野にも、例外なくこの考え方が導入されてきた。高齢福祉の分野に「介護保険制度」。児童福祉の分野に「幼保一元化」。障害者分野に「障害者総合支援法」。医療分野に「混合医療」。などである。

特にいままでも専門的な支援が必要とされてきた「障害者分野」の規制緩和はひどい状況になってきた。いままでは「行政」および特殊法人である「社会福祉法人」

みに認められていた「障害者施設」の運営を、その他の法人すべてに規制緩和したのである。大都市では「社会福祉事業起業セミナー」が開催され、そのチラシを見ると「福祉に関するノウハウ一切不要!」「開業資金は公的資金(医療福祉事業団)を利用できます!」「介護スタッフの採用も任せてください!」「成長市場で安定した運営を保障します!」などの驚くべきフレーズが踊っている。次号ではこれらの結果、障害者福祉の内容がどう変わってきたかを記したいと思う。

文責

いぶき はやしもりお



ほとんどのリフト車
両が10万キロ以上走行



岐阜県共同募金会様
から平成25年度の臨時
費配分金の決定をいた
だき、車椅子4脚乗車
可能なリフト車を購入
しました。

赤い羽根募金の配
分金で車椅子利用者
送迎用車両を購入し
ました。



しており、リフトの故障
も頻発していました。こ
の事業整備のおかげで
利用者の送迎をより安
全に安心して実施する
ことができるようにな
りました。
ありがとうございます
第二いぶき 和田 善行



いぶき福祉会 決算報告

平成25年度決算報告 社会福祉法人いぶき福祉会 (単位:円)

貸借対照表(平成26年3月31日現在)

勘定科目		借方	勘定科目	貸方
流動資産		158,781,430	流動負債	10,475,103
現金預金		63,330,576	未払金	7,014,872
商品・製品		5,909,463	預り金	3,460,231
仕掛品		4,971,525	固定負債	66,993,103
原材料		1,110,341	設備資金借入金	46,110,000
未収金		82,796,935	退職給与引当金	20,883,103
前払金		662,590	負債の部合計	77,468,206
固定資産		693,696,893	基本金	182,345,144
基本財産		476,386,697	国庫補助金等特別積立金	301,690,031
その他の固定資産		217,310,196	その他の積立金	123,741,520
			次期繰越活動収支差額	167,233,422
			純資産の部合計	775,010,117
資産の部合計		852,478,323	負債及び純資産の部合計	852,478,323

資金収支計算書(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

勘定科目	決算額
就労支援事業収支	
就労支援事業収入計	31,480,123
就労支援事業支出計	33,273,872
就労支援事業活動資金収支差額	-1,793,749
福祉事業活動収支	
福祉事業収入計	526,877,707
福祉事業支出計	484,759,409
福祉事業活動資金収支差額	42,118,298
施設整備等収支	
施設整備等収入計	0
施設整備等支出計	6,467,087
施設整備等資金収支差額	-6,467,087
財務活動収支	
財務収入計	0
財務支出計	28,829,702
財務活動資金収支差額	-28,829,702
当期資金収支差額合計	5,027,760
前期末支払資金残高	131,287,238
当期末支払資金残高	136,314,998

事業活動収支計算書(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

勘定科目	決算額
就労支援事業収支	
就労支援事業収入計	31,480,123
就労支援事業支出計	26,419,584
就労支援事業活動収支差額	5,060,539
事業活動収支	
福祉事業収入計	506,693,917
福祉事業支出計	479,887,990
福祉事業活動収支差額	26,805,927
事業活動外収支	
事業活動外収入計	45,386,608
事業活動外支出計	46,889,690
事業活動外収支差額	-1,503,082
経常収支差額	30,363,384
特別収支	
特別収入計	977,700
特別支出計	977,700
特別収支差額	0
当期活動収支差額	30,363,384
繰越活動収支差額	
前期繰越活動収支差額	158,617,020
当期末繰越活動収支差額	188,980,040
その他の積立金取崩額	0
その他の積立金積立額	21,746,982
次期繰越活動収支差額	167,233,422

法人認可

いよいよ施設建築へ

私たちが自分たちで施設をつくろうと動き出したところには岐阜市には、障害者を受け入れる施設として市立の恵光学園があり、民間では「なずな学園」がありました。しかし、新たに卒業してくる障害者を受け入れるには十分な環境ではなかったため「いぶき共同作業所」などの施設作りの活動を始めたわけです。これまで記してきましたように、この活動を 10 年間続けて、既存の施設に頼っているだけでは利用者や施設の職員に明日の展望がないことが多くの人たちにも明らかになった頃に、法人認可活動がいよいよ実

を結ぶことになったのです。

7月に法人認可の書類を受け取ったあと、建設業者の入札が行われ、施設建設が始まりました。以前あった旧島支所は取り壊され更地となり12月から基礎うちの土堀から建設の工事が始まり、次年の

ほとんどの施設は1階の玄関付近に事務室があり、来訪者に対応するのですがいぶきの事務室は3階にあります。設計当初はもちろん1階の作業室は事務室にする予定でした。しかし、車いすを利用する障害者を受け入れる施設と

ある10名を1部屋として3部屋の作業室をつくりました。毎日できたてのお昼ご飯が食べられる食堂、医務室、更衣室、身障者に配慮したトイレなど建設認可に必要な部屋が整った施設です。

いぶきがでるまで

その七

3月はじめにはほぼ完成し、待ちわびていた仲間は下見に訪れ、完成間近な建物の前でいぶき紹介パンフレットの写真を撮りました。ところで、いぶきにこ

られた事のある皆さん、いぶきにこられて他の施設と違うと思われたことはありませんか？

完成したのですが、いぶきという建物ができたことで私たちの運動が終わったわけではなく、これは私たちの運動の一里塚でしかありません。もちろん、多くの皆さんはご存知のように、いぶきの建物も、うずら共同作業所、第二いぶき等々

どん増えていきました。しかし、いぶきにとつて本当に大切だったことは、毎日の仲間の生活・作業を本当に充実させ、また施設の職員が生きがいをもって働けるようになることでした。

次回からは、こうしたいぶきの実践を確かなものにしてきた歩みに少し触れたいと思います。

いぶき 横幕嘉行

情報
掲示板

後援会員への新規加入・更新を
よろしくお願い致します

[振込先]

郵便振替 00840=3=91146
加入者名 いぶき福祉会後援会

[年会費] 一般会員 一口 2,000円
団体会員 一口 10,000円

お問い合わせ] いぶき福祉会後援会事務局

TEL 058-233-7445

FAX 058-232-9140

E-Mail ibuki@alto.ocn.ne.jp
(タイトルに後援会員と入れて下さい)

後援会への入会はJR岐阜駅の
「ねこの約束」でも手続きしていただけます



*後援会通信は、発送日の20日前より発送作業に入ります。そのため、会費を振り込んで頂いても未納扱いの封筒が配達されてしまう場合がございますが、次号にて更新済みの封筒にかわり、後援会通信と一緒に領収書などを送らせていただきます。

後援会の皆さまへ
施設見学会開催の
お知らせ

1435名の後援会の皆さまにも広く、いきいきとした仲間たちの活動や施設をご覧いただきたいと思い、見学会を企画しました。ぜひお越し下さい。

日時

11月27日(木曜日)

10時半より

会場

いぶき

岐阜市島新町5番9号

事前に左記までお電話で、ご予約をお願いいたします。

TEL

058-233-7445

(岩本・井上)